

1 まちづくりの視点

1 基本的な考え方

扶桑町では、「第5次扶桑町総合計画」において「みんなの笑顔が かがやくまち 扶桑町」をまちづくりの視点とし、子どもから高齢者まで「みんな」が笑顔で過ごせるまちを実現するため、町民と行政の協働によって様々な取り組みを進めてきました。

アンケート結果としても、「町民の意見がまちづくりに反映されている」と感じる方の割合が、「第5次扶桑町総合計画」策定時に比べて増加しており、「みんな」の想いを実現し、笑顔を少しずつ増やして来られたのではないかと思います。

しかし、アンケート結果において「扶桑町のまちづくり事業・活動に参加したことはない」方は約68%と半数以上であるため、今後も町民等と行政が協働で取り組むまちづくりの実現に向け取り組んでいくことが重要です。

本計画においても、「みんなの笑顔が かがやくまち 扶桑町」のまちづくりの視点を踏襲し、「みんな」が笑顔で過ごせるまちの実現に向けた、協働のまちづくりを推進していきます。



2 計画フレーム

将来のまちの姿をあらわす目安となる計画フレームを設定します。

①総人口

令和9年（2027年）の人口を、約35,000人と見込みます。

現状、人口は横ばいで推移している扶桑町ですが、令和7年（2025年）頃をピークに減少傾向になると予測しています。計画最終年の令和9年（2027年）には、約35,000人になると見込んでおり、「第5次扶桑町総合計画」における予測を少し上方修正した状況です。

②人口構成

令和9年（2027年）の人口構成を、年少人口12.11%、生産年齢人口61.46%、老年人口26.43%と見込みます。

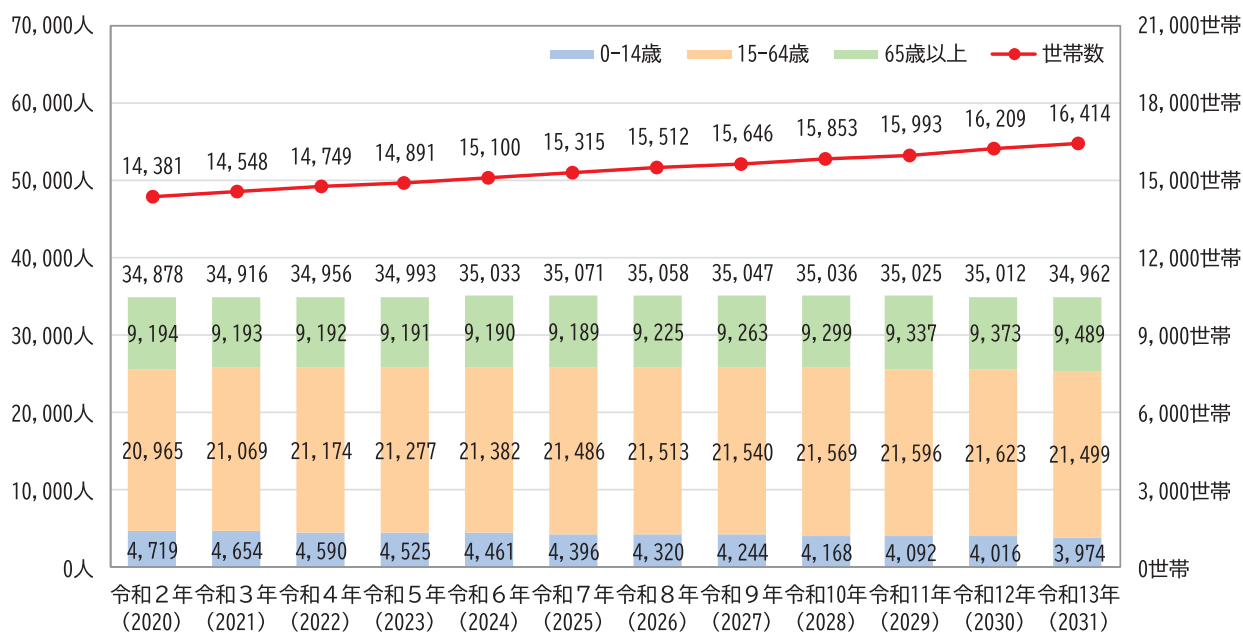
今後も少子高齢化の進行が進んでいくことが想定されます。現状と比べ、年少人口と生産年齢人口の比率は減少し、老年人口の比率は増加していくと見込みます。

③世帯数

令和9年（2027年）の世帯数を、約15,600世帯と見込みます。

世帯数に関しては、現状も増加しており、今後も増加傾向は続く予測しています。人口が減少に転じた後も世帯数の増加は続く想定され、核家族化、高齢者の単独世帯の増加等、1世帯当たり人員が減少していくと見込まれます。

人口・世帯数推計



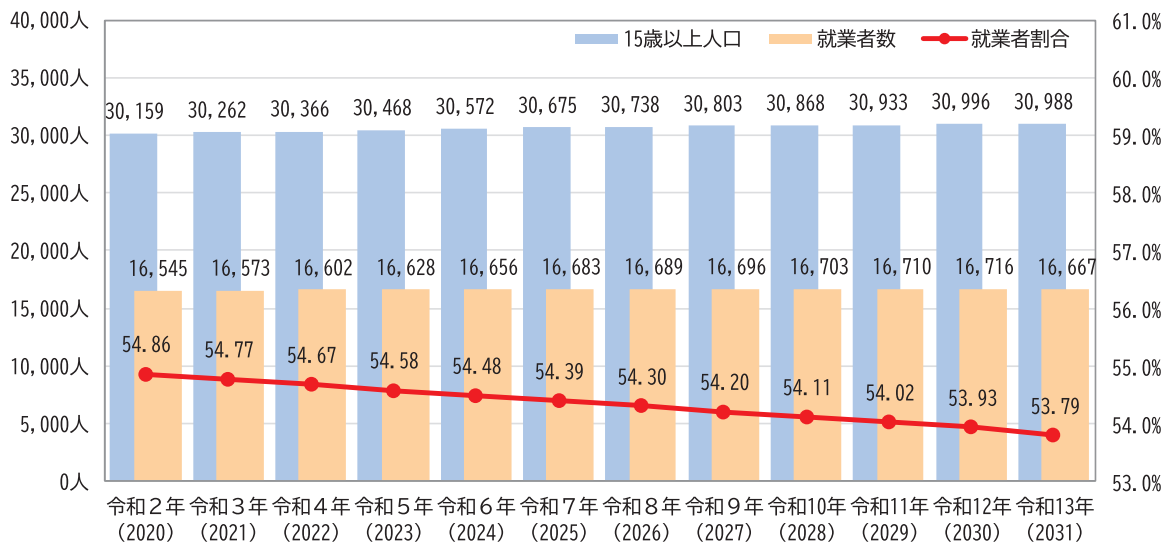
※住民基本台帳のデータを用い、コーホート要因法にて推計（扶桑町の独自推計）

④就業者数

令和9年(2027年)の就業者数を、16,696人と見込みます。

人口の増加に伴い、15歳以上人口も今後増加傾向で推移することが予測されます。しかし、高齢化が進むことで、就業者割合は減少していくことが想定されます。就業者数は令和12年(2030年)まで増加を続け、令和13年(2031年)頃から減少に転じると見込みます。

就業者数推計



※住民基本台帳のデータを用い、コーホート要因法にて推計(扶桑町の独自推計)

まちづくりの視点 みんなの笑顔が かがやくまち 扶桑町

基本目標		施策
まちづくり	基本目標 1 みんなで“支え合う” ほっこり暮らせるまちづくり	お互いに支え合える環境をつくり、誰もが安心して暮らし、ほっこりとしたやさしさを実感できるまちづくりを目指します。また、多様な立場の人々が触れ合い、支え合えるつながりを醸成します。
	基本目標 2 みんなで“学び育む” 次代と豊かな心を育むまちづくり	住民が学校や家庭、地域などで生涯を通じて知識や経験、豊かな心を育むことができるまちづくりを目指します。また、「文化のまち扶桑」として個人や団体の活動を支援し、「文化の香り高いまち」を醸成します。
	基本目標 3 みんなで“守る” 思いやりのある安全・安心なまちづくり	地域に愛着を感じ、思いやりの心を持って良好な地域コミュニティを醸成するなかで、防災や防犯への備え、住みやすい生活環境づくりなど、地域が一体となって安全・安心な生活を守ります。
	基本目標 4 みんなで“活かす” 住み続けられる・魅力あるまちづくり	住民が郷土への誇りを感じながら、いつまでも住み続けたいと思えるまちづくりを目指します。産業振興も視野に入れ、今ある地域資源を活かした、まちの新たな魅力づくりを進めます。
行政経営	基本目標 5 みんなで“創る” ともに支える自立した行政経営	効果的な財源利用と新たな発想・工夫で行財政運営の手腕を磨き、住民と行政がお互いに尊重し協力しながら、自立した健全な行政経営を実践します。
		[施策1] 子育て支援 [施策2] 健康づくり [施策3] 高齢者福祉 [施策4] 障害者（児）福祉 [施策5] 社会保障 [施策6] 学校教育 [施策7] 家庭教育・青少年育成 [施策8] 生涯学習 [施策9] 文化・芸術 [施策10] 男女共同参画 [施策11] 環境保全・循環型社会 [施策12] 防災 [施策13] 交通安全・防犯 [施策14] 住環境 [施策15] コミュニティ [施策16] 公園緑地・景観 [施策17] 道路・公共交通 [施策18] 下水道 [施策19] 公共施設 [施策20] 農業 [施策21] 商工業・労働 [施策22] 協働のまちづくり [施策23] 情報共有 [施策24] 行財政運営 [施策25] 職員の意識改革

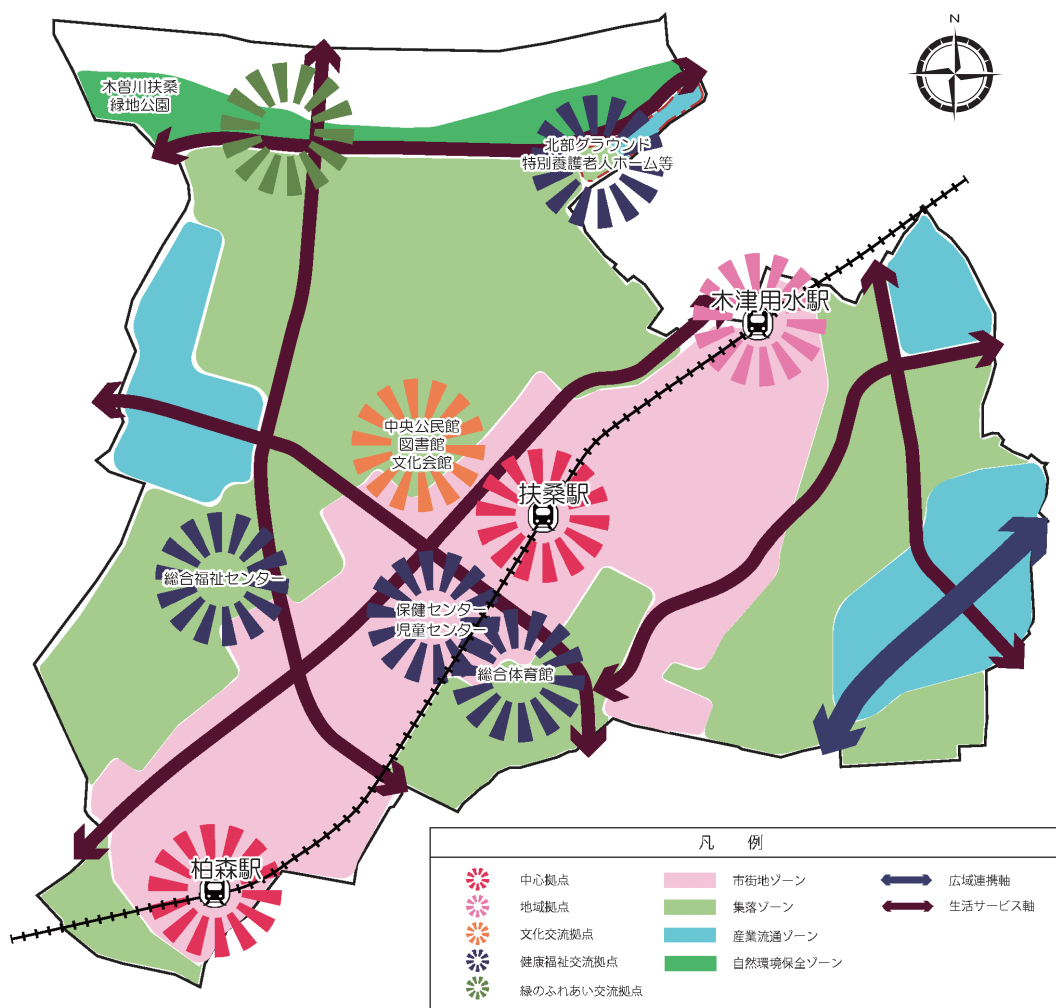
3

土地利用構想

現在は人口増となっている扶桑町ですが、長期的視点で見ると、人口は減少に転ずると見込まれています。今後の人口増、社会増を見込んだ定住政策は重要なポイントです。

半径2kmの円に収まる小規模なまちにおいて、誰もが快適に暮らせるより有効なまちづくりを行うため、以下の将来都市構想図をもとにした土地利用を推進します。

【将来都市構造図】



1 土地利用の方針

①市街地ゾーン

人口減少・高齢化が進む中、誰もが快適に暮らせる住環境を目指していくために、市街地区域を中心に、道路、下水道等のインフラや生活サービス施設といった都市機能をバランスよく配置すると共に、駅を中心としたコンパクトな市街地形成を図り、これからも誰もが住みやすい利便性の高い市街地の形成を図ります。

②集落ゾーン

生産基盤の整った優良農地や自然環境を保全すると共に、営農が見込まれる農地や樹林地の保全、緑化推進により、自然的土地利用の確保を図り、既存集落と農業が調和した落ち着いた落ち着きのある良好な集落農業地域の形成を図ります。

③産業流通ゾーン

既存の工場が立地している地区及び周辺は、町の産業振興に向けて関係機関との調整を図りながら、広域交通の利便性を活かした産業立地を維持・促進する産業流通ゾーンの形成を図ります。

また、広域連携軸として6車線化事業が実施される(都)国道41号沿道周辺については、立地ポテンシャルを活かし、将来を見据えた都市活力の向上を図るために、産業集積による新たな産業用地や雇用創出に繋がる新たな産業流通ゾーンの形成を図ります。

④自然環境保全ゾーン

木曽川や既存樹林地といった自然環境は町の重要な地域資源として保全を図りながら、町民の憩い・交流・健康な暮らしを育む場、多様な生物の生息地として更なる充実を図ります。

2 地域拠点の方針

①中心拠点

扶桑駅や柏森駅は、駅周辺整備を推進し、利便性の高い生活圏を形成することで、駅を中心としたコンパクトなまちづくりを推進します。

②地域拠点

一定の生活利便施設が立地する木津用水駅は、地域拠点としての活用を図ります。

③文化交流拠点

中央公民館、図書館、文化会館を中心に生涯学習や文化活動の拠点の形成を図ります。

④健康福祉交流拠点

特別養護老人ホーム等の福祉施設、北部グラウンド、総合体育館、総合福祉センター、児童センター、保健センターを中心に健康福祉交流拠点の形成を図ります。

⑤緑のふれあい交流拠点

木曽川扶桑緑地公園周辺においては、今後（仮称）新愛岐大橋の整備が計画されている中で、将来より多くの町内外の集客が見込まれます。そのため、利用者のレクリエーション、文化活動、自然体験といった緑を中心とした人々のふれあいや交流が活発な場として、拠点に位置付けます。